

# たけら

TAKUSUI  
No. 722

12  
December.2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



但州丸 (神戸市)

**平成28年 兵庫県水産賞受賞者 決定**

**神戸市で「平成28年度 虹の仲間であそびづくり」開催**

《今月の海上安全標語》～ 良い年を迎えるために… ～

LJ (ライフジャケット) は、あなたの命を守ります!

新しい年を家族や仲間と楽しく迎えるためにも、是非、着用して下さい!!

ライフジャケ

**LJ 着けて納める**

しごと

**今年の操業**

では、来年も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる。)

## 呪文と通勤

県立農林水産技術総合センター水産技術センター所長 **堀 豊**



本年4月に水産技術センター所長に着任しました堀豊と申します。よろしくお願ひいたします。

昨年度まではそれほど強く感じることはありませんでしたが、今の立場となつてストレスの多さと強さに驚くとともに、それを解消することの大切さが身にしみます。

近頃、「マインドフルネス」とか「瞑想」という言葉を新聞広告などでよく見かけますが、私も以前から電車の待ち時間や車中、徒歩通勤中に、あるいは信号待ちやカップ麺の待ち時間などに心の中で般若心経を唱えたりしていました。唱えている間はよそ事を考えないので、何となく心が落ち着いていきます。特に朝の通勤電車の中では思うに任せないことが多く、イライラが募るので、毎朝、山陽明石駅から東二見駅の間は、大抵目を閉じて般若心経の世界に浸っています。

東二見駅から職場までは、なるべく人通りの少ない道を選んで、他人の家の庭や道端の花を楽しみながら歩きます。たまに(この5年間で3回ほどですが)すれ違う小学生が「おはようございます」と挨拶してくれることがあり、とても幸せな気分にもなれます。

また仕事帰りの道すがら、今日あった辛いことを思い出して落ち込んだとき、誰かあるいは何かのことに怒りを感じてしまうときなどには、相手のことを思い浮かべながら「ごめんなさい、許してください、有難う、愛しています」という四つの言葉を、繰り返し、繰り返し、呪文のように唱えるようにしています。これは、ホ・オポノポノというハワイの伝統的な癒しの方法で、やさしい教科書的な本が何冊も出版されています。こんな単純な呪文でも、繰り返し返すうちに、ストレスでモヤモヤしていた頭が段々すっきりしてきます。対人関係のストレスには強い効き目があり、水産技術センターから東二見駅までの徒歩20分の間に大抵のことは昇華できます。

車の運転中はおすすりできませんし、呪文の暗誦には少し時間がかかりますが、一度お試しになってはいかがでしょうかでしょう。

## CONTENTS

No.722 December, 2016

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県水産賞 受賞者決定  
兵庫県漁業信用基金協会 臨時総会 開催
- 4 淡路水交会 漁業者による森づくり  
虹の仲間で森づくり
- 5 兵庫JCC協同組合研究・交流会  
たつの市立室津小学校 郷土料理給食会
- 6 播磨地区漁協職員協議会 学習会開催  
神戸海上保安部からのお知らせ
- 7 アカウニ受精卵放流 実施  
但州丸 帰港式
- 8 兵庫県水産系統団体役職員OB会総会  
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉 「但州丸」(神戸市)

11月28日(月)、船籍のある神戸港で、県立香住高校の実習船「但州丸」の帰港式が行われました。

この写真は、但州丸とその後ろに停泊していたクルーズ客船「ばしふいっく びいなす」を写したものです。

1998年就航で「ばしふいっく びいなす」は、全室海側の収容人員600名を超える日本籍で2番目に大きいクルーズ客船で「楽しむ船」。一方、但州丸は、6代目の実習船として昨年竣工し、高性能機器を搭載した最新鋭の実習船で「学びの船」。

様々な船が停泊する神戸港は、来年1月1日に開港から150年を迎えます。



## 県農林水産業の功労者表彰

### “平成28年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様(左から 河本様ご夫妻、松本様ご夫妻、菱谷様ご夫妻)

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、11月29日(火) 県公館(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF神戸市 河本 勝博さん(61)、JF淡路島岩屋 菱谷 康人さん(66)、JF浜坂 松本 齋さん(72)の3名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。



氏名	所属	功績内容
かわもと 河本 かつひろ 勝博	JF神戸市	大阪湾における漁業秩序の維持と漁業経営の安定化への貢献
ひしたに 菱谷 やすひと 康人	JF淡路島岩屋	船びき網漁業の振興と資源管理型漁業の推進への貢献
まつもと 松本 ひとし 齋	JF浜坂	浜坂地区の沿岸漁業の振興と但馬地域の漁業調整への貢献

(敬称略)

## 兵庫県漁業信用基金協会が臨時総会を開催

～平成29年4月の全国組織への合併に向けて～

漁業信用基金協会は、保証を通じて中小漁業者等の漁業経営等に必要な資金の融通を円滑にすることを目的としています。しかしながら、諸情勢が年々厳しくなる中で、将来的にも安定的かつ継続して浜の水産金融を支えていくためには、協会の財務基盤の安定化が求められており、また、東日本大震災の経験を通じ大震災等の大災害にも対応できる協会づくりが必須となっております。このため、新たに県域を越えた広域にわたる合併協会の設立することを目的とし、平成27年4月より広域合併に向けて協議を重ね、今年3月23日に協会合併プランが開示されました。8月3日には、協会合併に係る「平成28年度第1回理事長会議」が東京で開催され、一般社団法人漁業信用基金中央会会長を立会人として、全国19協会(北海道・岩手県・秋田県・福島県・神奈川県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県・岡山県・広島県・徳島県・福岡県・宮崎県・沖縄県)の理事長により合併仮調印が行われました。



そして今回、合併に参加する可否を議決願うべく、去る11月14日(月)明石市のホテルで平成28年度11月臨時総会を開催しました。多数の会員の皆様にご出席いただき、無事全ての議案が可決決定されました。これにより、当協会は、平成29年4月3日(月)より全国漁業信用基金協会兵庫県支所として新たにスタートいたします。合併後も役職員一同いっそうの努力をはかって参りますので、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(文：兵庫県漁業信用基金協会)



# 淡路水交会の「漁業者による森づくり」

## 洲本市立第二小学校児童も参加しての植樹活動

一般社団法人淡路水交会（東根壽会長）が主催する「漁業者の森づくり」が11月8日（火）、洲本市の山林で行われ、バベ・ヤマモモあわせて600本を植樹しました。

この活動は、漁業者と一般市民が力をあわせて豊かな海の再生に向けた「森づくり」を行うことで、環境保全と地域への貢献を図るとともに、バベ（ウバメガシ）や間伐材を使った、柴漬けによる産卵床の設置によりアオリイカなどの増殖を図る趣旨で始まったもので、8回目となる今年も、認定NPO法人瀬戸内オーリーブ基金から緑化事業の認定を受けて開催されました。



当日は

雨が降るなかの作業となりましたが、島内J

F役職員、漁青連、女性連のほか、行政や系統団体、さらに洲本

市立第一小学校3年生児童25人を加えた約160名が集合しまし

た。参加者らは植樹手順の説明の後、苗木と土嚢に入

った土を次々に運び込み、用意したバベ、ヤマモモの苗木合計600本を植樹しました。

また、児童らは、洲本農林水産振興事務所担当者から説明を受け、森・川・海の関係のほか、かいぼりや海底耕耘の取組みについて学習しました。

豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。

（文：JF兵庫漁連）



順調に成長し豊かな森となることを願います



雨の中の作業となりました

# 「虹の仲間」で森づくり

## ～今年は神出神社（神戸市西区）周辺で開催～



漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間」で森づくり。10回目となった今年は、場所を、これまで行ってきた三木市内の森林から、神戸市西区にある雌岡山（神出神社周辺）に変えて開催されました。

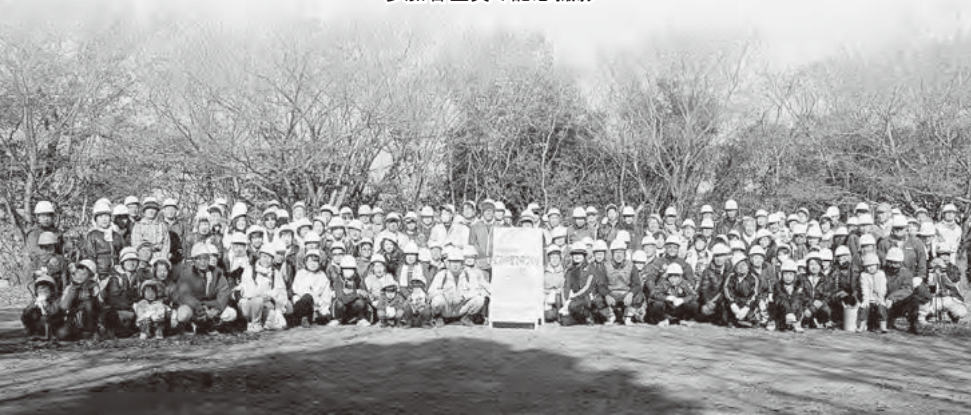
快晴に恵まれた12月3日（土）、県内各地からJFグ

ループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者など約160名が集まりました。主催者挨拶では、JF兵庫漁連 田中稔彦理事が「今の形となる前、波賀町での植樹からスタートし、18年目を迎えることが出来たのも皆様のお陰である。今年も怪我の無いように頑張りましょう」と挨拶をされ、全員で準備運動を行いました。この後、17班に分かれ、ヘルメット姿の参加者は、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りました。作業について指導員の方から説明を受けた後、参加者は周囲に気を配りながら、常緑樹を中心に次々に除伐を行いました。約2時間の作業を終えると、作業をしたところには太陽の光が差し込み、作業を行った皆さんは「日が差し込むようになった」と嬉しそうに話していました。

この後の昼食は、兵庫のりを使った巻き寿司、カキの味噌汁等が振る舞われ、同じ班のメンバーと楽しい昼食の時間を過ごしました。

森の中で「木を切る」という作業なのですが、たいへん、おもしろい、という感想が多く、何度も繰り返し参加している方が多い活動です。皆様も一度、是非参加してみてください。

参加者全員で記念撮影



快晴のもと、皆で昼食を摂りました



# 兵庫JCC協同組合研究・交流会

～林業をテーマに朝来市で開催～



生協・JA・JF・森林組合で構成する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）では、「環境保護・食の安全・食育など、地域やくらしに貢献する取組みを協同組合間で連携してすすめます」をテーマに、2008年度より生産者・消費者間の交流を深める「兵庫JCC協同組合研究交流会」を開催しており、本年度は林業（担当：兵庫県森林組合連合会）をテーマに視察研修を行いました。

11月8日（火）、県内各地から集まった農業・林業・水産業・生協等の関係者約30名が集まり、朝来市にある兵庫県森林組合連合会バイオマスエネルギー材供給センターと朝来森林組合を訪れました。

同バイオマスエネルギー（be）材供給センターでは、県内各地の間伐材や、木の根や梢などの未利用部分を発電用ボイラーの燃料に利用するため、乾燥・加工し燃料チップを作っており、センターの敷地に入ると、参加者は高く積まれた間伐材の量に圧倒され

ました。この日は、木材をチップに加工する工程と、隣接する朝来バイオマス発電所（平成28年12月稼働）の試験運転の様子も見ることが出来ました。同センター 高田 裕副所長は、「この発電事業は、官民が共同で行う全国でも珍しいもの。20年間、一定量を固定単価で買取るシステムで、林業の経営安定、雇用の拡大に繋がると同時に、災害に強い森づくりを目指すものである」と話され、期待の高さがうかがわれました。



12月から稼働するバイオマス発電所



重機を使った作業を見学

午後には朝来市森林組合が管理する山に入り、木の伐採作業を見学しました。樹齢約30～50年の杉を手際の良い作業で狙った方向に倒すと見学者から大きな拍手が上がりました。このほか作業用機械の操作も見ることが出来、参加者は盛んにカメラに収めたりしていました。

若い就業が増えてきたことや、機械化が進み効率化が図られていること、間伐材の有効利用など、今後の林業の姿を垣間見ることが出来た研修となりました。

## たつの市立室津小学校で郷土料理給食会



室津で水揚げされる新鮮な魚や地元野菜を使った「郷土料理給食会」が11月22日（火）、たつの市立室津小学校で開催されました。この給食会はJF室津

やJF室津女性部（高木 友子部長）、地域の皆さんが町ぐるみで取り組んでおり今年で13回目になります。

今年、地元食材を使ったシーフードカレーを中心としたメニューで、1・2年生がエビの殻むきと酢大根作成、3・4年生はかまどご飯づくりとイカのカット、5・6年生はシタビラメの3枚おろし・干物づくりを担当し、朝から準備に取り掛かりました。シタビラメを担当した5・6年生の児童たちは、同女性部員の指導のもと、児童たちは、次々に三枚おろしにした後、油で揚げて骨せんべいや唐揚げにしました。これまでの活動の成果が発揮され、見事に捌く子どもが多かったです。

手際良く調理され、お昼前には同校の体育館にシーフードカレー（シタビラメ、イカ、エビ入り）のほか、骨せんべい、酢大根、寒天、干物、ポテトサラダ、ヒジキ大豆、友君ようかんなど、室津産と郷土料理にこ

だわった品々が並びました。保護者、学校関係者、地域の皆さん、JF職員、幼稚園児たちが集まり、食事を楽しみました。また、給食会では児童が食について学んだことをスライドで紹介したあと、小学校の運動会などで代々歌い継がれている室津之唄（室のほこり）を同女性部メンバーが壇上へ上がり披露しました。

室津小学校と同女性部が始めたこの会は、回を重ね、児童だけでなく地域の皆さんにも室津地区の地産地消や文化などを知ってもらえる行事として大きな役割を担っています。今後も地域の方々の協力を得て続けられていくことを期待します。



地元産食材の給食が出来ました



女性部から歌の披露がありました



シーフードカレーのほか、沢山のおかずが出来ました



# 家島の海上釣堀センターで学習会開催

播磨地区漁協職員協議会（澤浦 博光 会長・JF家島）は、会員組合内の様々な事業について学び、知識を深めようと、毎年、学習会を開催しています。今年、JF家島から民間企業へ業務委託された「釣堀」事業について研修を行いました。

この日、姫路市妻鹿漁港に集まった会員JF職員のほか、系統団体職員の総勢30名が姫路市妻鹿漁港から家島町の釣り堀に向かい出港しました。現地ではまず、澤浦会長が「数年前に同様の学習会を行った。今回は



皆さん、マダイの引きを楽しんでいました



天気にも恵まれた学習会となりました

民間に委託されて初めてのとなるので、違いを見て頂けたら」と挨拶をされ、委託業者「家島フィッシングパーク・Sea遊」の中川康治氏からは、釣り堀

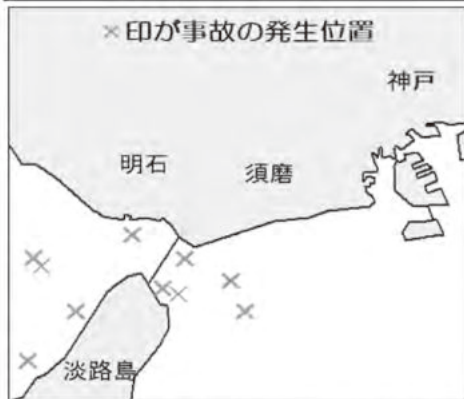
について説明がありました。20m四方×2台をはじめとする足場の良い生簀を多数の備えたこの施設は、港に車を止めてから同センターまでの直行便を有し、貸し竿、エサのほか、職員らが釣った魚を捌いてくれるなど、家族連れでも手軽に楽しめるようになっており、休日、マダイやブリなどの大型魚を求め釣りに出かける方も増えているとのことでした。この日も、平日にも関わらず京阪神地区の釣り人十数名が利用しているのを見ることが出来ました。参加者は、このあと釣堀体験として、実際に魚釣りを行いました。エサ付けなど、初めての方は担当者から指導を受けたのち、仕掛けを海中に入れると、すぐにウキにアタリが出て、皆、次々とマダイやブリを釣り上げていました。ほとんどの方が数匹釣り上げることが出来、魚の強烈な引きに慌てながらも楽しんでいました。終了後、マダイ2尾が渡され、楽しく学習会を終えることが出来ました。

## 漁船の衝突事故が続いています！

神戸海上保安部からのお知らせ

本年1月1日から12月2日までの間に、漁船の事故が10隻発生（うち衝突8隻、海中転落による無人漂流2隻）しています。（昨年1年間で4隻発生）

11月30日に明石海峡西方高蔵瀬で漁船同士の衝突事故が発生したほか、12月2日にも明石港港口で漁船とプレジャーボートの衝突事故が発生するなど、衝突事故が続いています。原因の多くが見張り不十分です。まかり間違うと死亡事故につながる恐れがあります。



- ・航行中のみならず操業中も常時適切な見張りをお願いします。
- ・接近する船舶があれば早めの避航をお願いします。
- ・自身はもちろん、家族のためにもライフジャケットを着用して下さい。

海の安全情報（沿岸域情報提供システム）

安全に関する情報は海の安全情報から入手できます！

スマートフォン用QRコード





# アカウニ受精卵放流を実施



由良町漁協4  
Hクラブ・由良  
地区潜水漁業協  
会は、洲本市由  
良地区で採れる  
高級食材のアカ  
ウニを増やそ  
うと、11月22  
日（火）にアカ  
ウニの受精卵約  
3,200万粒

を洲本市沖に放流しま  
した。

この受精卵放流は、  
既に取り組んでいる  
稚ウニの放流、ウニ  
の養殖に続くもので、  
（公財）ひょうご豊か  
な海づくり協会淡路  
事業場 末原 裕幸場長  
の指導のもと、成熟  
したアカウニ10個に  
濃い塩水（塩化カリウ  
ム）を注入して刺激を  
与えた後、広口瓶の上  
に置き、精子と卵を取  
り出しました。アカウ  
ニの雌雄は見た目で  
判別するのは難しい  
ですが、今回の精子と  
卵の放出結果を見る  
と、オス・メスともに  
5個ずつという結果  
でした。こうして作成  
した受精卵は推定約  
3,000万粒で、同

協会淡路事業場から提供さ  
れた受精卵（4腕期幼生）約  
200万粒とあわせて、合計  
約3,200万粒を放流しま  
した。  
同漁協の潜水協会 川北勝  
彦会長は「受精卵の採取が成  
功して良かった。これから毎  
年続けていきたい。」と言わ  
れていました。  
（文：JF兵庫漁連）



塩化カリウムを注入するところ



瓶の上に置き、精子・卵子を取り出します

## 但州丸の帰港式が行われる ～関係者を対象に試乗も行われる～



兵庫県立香住高等学校 海洋科学科オーシャ  
ンコース第2学年の生徒17名を乗せた実習船  
「但州丸」は、マグロ延縄漁業など所定の実習  
を終え、船籍のある  
神戸港に帰港しまし  
た。

11月28日（月）の  
帰港式は、神戸港中  
突堤に停泊中の但州  
丸の前で行われ、学  
校、水産業界関係者  
や生徒の保護者など  
約60名の参加のもと  
行われました。

来賓として出席し  
たJF兵庫漁連 田  
沼政男会長は「今



中川会長から記念品が手渡されました

回の実習は大変貴重な体験となったと思う。こ  
れまで学んだ知識や技能、さらに情熱をもつ  
て、是非、水産業界を盛り上げて頂くことを期  
待します」と挨拶をされ、また、JF兵庫漁連  
中川 照央会長は実習生代表に記念品を手渡  
されました。最後に、実習生代表から「海が荒  
れることが多く、急な日程変更もあったが、仲  
間と過ごすなかでお互いに力を合わせることに  
大切さを学び、これから活かしていきたいと思  
う」と力強い抱負が述べられました。  
式典終了後、「但州丸」の試乗が行われ、田  
沼会長はじめ関係者が乗船しました。担当者か  
ら船内の説明を受けたあと出港した船は、神戸  
港を出て、再び入港する約1時間の航海を行  
いました。最新の計器類が並ぶ操舵室で、参加者  
はモニターや操船する様子を目の前で見るこ  
とが出来ました。



但州丸の操舵室の様子



## 平成28年度 兵庫県水産系統団体役職員OB会総会

11月19日(土)、明石市内のホテルにおいて「平成28年度兵庫県水産系統団体役職員OB会総会」が開催され、会員21名が出席しました。

開会にあたり、出席者一同は、この一年間に亡くなられた会員に対して黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。その後、岡本副幹事長より「今年は参加者が若干少ないですが、我々はまだまだ元気なので、今後は一人でも多くの方に参加いただきたく皆様からのさらなるお声掛けをお願いします。年に一度の懇談の場です。大いに旧交を温めてもらいたい」と挨拶をされました。続いて、来賓のJF兵庫漁連 田沼 政男会長より「諸先輩方が築いてこられた歴史を系統団体がひ



つになつて引き継ぎ、兵庫の漁業を発展させて行きたいと思えますので、ご指導とご支援をお願いしたい」と祝辞を述べられました。

岡本副幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案どおり承認されました。続く懇親会では一般財団法人兵庫県水産振興基金近藤 敬三専務の乾杯の音頭により幕が上がリ、終始和やかな雰囲気の中、時間の経過も忘れて歓談がすすみました。

最後に山里幹事から「元気で、また来年会いましょう」と力強い閉会の挨拶があり、懇親会は終了いたしました。

(文：JF兵庫漁連)



参加者全員での記念撮影

# 海難事故をなくそう!

## ライフジャケットを着よう!

固型式ライフジャケットはメンテナンス不要!

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。



ライフジャケット(固型式)  
モデル：JF兵庫漁連 佐藤 泰弘さん

自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください!

## ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。

まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



モデル：兵庫県漁業共済組合 大西 大輔さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFか**JF兵庫漁連資材部(078-942-9272)**までお問い合わせください



## 兵庫県JA大会決議実践フォーラム・ 日本農業新聞兵庫県大会を開催

### JA兵庫中央会

JA兵庫中央会と日本農業新聞は10月28日、県農業会館で、「兵庫県JA大会決議実践フォーラム・日本農業新聞兵庫県大会」を開催しました。「農協改革」に関する情勢が激動する中、県内のJAグループ役職員約90人が参加し、JA大会決議を実践し、自己改革に取り組むための情勢認識と意思統一を行いました。

中央会の石田正会長は、「自己改革の成果を着実に挙げていくことが必要。新時代を拓く3つのプロジェクトに取り組み、成果を挙げ、組合員や地域住民からしっかり評価していただくことが大事」とあいさつしました。また、稲葉洋副会長が、「農業者の所得増大と農業生産の拡大、そして地域の活性化の実現のため、組合員と共に、役職員の総力を挙げて大会決議の実践、自己改革に取り組むため、日本農業新聞を普及・活用する」と申し合わせを行いました。

フォーラムでは、福岡県のJA系島営農部の相田俊郎部長が、「系島ブランドによるJA系島ファンづくりの展開」、愛媛県のJAおちいまばり営農企画課の森康弘課長が、「元気な地域農業の復活!! ～強い志が地域を元気にする～」と題して優良事例発表を行いました。また、経済評論家の三橋貴明さんが「これからの社会・経済情勢とJAの課題」と題して講演しました。



講演する三橋さん

## 兵庫県・兵庫県生協連 共催 第19回 「監事研修会」を開催

兵庫県生協連では、11月11日（金）、兵庫県民会館で兵庫県と兵庫県生協連の共催による「第19回監事研修会」を開催。生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査実務のあり方を学び、今後も健全な生協運営を実施していただくための研修会に13生協から26人が参加しました。

はじめに、MMコンサルティング代表 三宅 充さんより「監事の任務と責任」について講演いただきました。また、兵庫県企画県民部消費生活課 石田千春 主幹から「生協の指導検査を実施して」と題して、運営と経理面から、指導検査における指摘や講評について、具体的にお話しいただきました。分野別グループディスカッションの交流の場もあり、参加した役職員・監事からは「監事的重要性を改めて確認することができました」「グループディスカッションで他生協の監査について聞くことができ良かった」「監事・監査チェックリストを活用したい」などの感想が寄せられました。



◀監事の職責について話す三宅さん



▶グループディスカッションでは、それぞれの監査状況を共有しました





# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 終着駅

◆宮脇俊三氏は国鉄（JR）全線を乗車し、その記録を『時刻表2万キロ』として出版、日本ノンフィクション賞を受賞された。ある出版社で編集に携わりつつの快挙で、東海道本線の駅名を全て暗唱していたという。定年を待たず退社し作家業に転身、旅行紀行文を数々書いて『鉄道紀行文文学』を確立させた。筆者も若い頃、駅名を暗記しスラスラ述べて得意だったが、新駅の設置や改名があり「草津から神戸」間が難しく、此の区間でかなり減速したのを思い出す。全駅暗唱も今では半分以上を忘れ、脱軌転覆し走行不能になって仕舞っている。

◆昭和56年の雑誌に宮脇氏作成の《智頭線・未来時刻表》が掲載されているが、この創造時刻表は、時刻表が身体の一部になっているという作者の面目躍如とした傑作だと思う。全線運休中・開通見込み不明と断り書きをして、上郡と智頭を結んで鳥取への発着時刻が出ている。平福・下石井・大原町・西粟倉の駅名はあるが、宮本武蔵駅はまだ想定されてはいなかったらしい。著書『廃線跡を歩く』や『失われた鉄道を求めて』は、何らかの理由により消滅した鉄道路線を歩いての紀行文で、読むと感傷に耽ったり感慨を新たに出来る。職業だと言えば其れ迄だが、鉄道趣味に徹した生き方が、羨ましく思えて来るのである。

◆旅行の楽しみの一つに食事がある。鉄道による旅では《駅弁》であり、車窓を流れる景色を見ながら、頬張るご飯が美味しかった。駅弁の始まりは明治18年の東北本線宇都宮駅が通説になっている。握り飯2個と沢庵2切れを竹の皮で包んだ実に素朴なものだった。そのあと信越線横川駅、そして高崎駅と続いて販売されたが、全てが竹の皮包みだったそうだ。神戸駅にある暮の内弁当も歴史が古い。山陽本線が姫路駅まで延長された明治21年に売り出されている。

◆旅の途中での食事は、その地で産した物が献立に入らなれば満点だが、利便性の良い現代では山奥の宿でも鮭や烏賊の刺し身が出る。宿にすれば最高の献立なのだろうが、少しガツカリさせられる。旅人の心も変わり、目的地だけを旅だと考える風潮があつて、途中の景色を楽しむ余裕が無くなった。旅自体が線から点へと変化したのは、自動車による移動が多くなったためだと思う。運転者は前方注視が主で脇見が出来ない。標識を見落とさぬよう、神経をピリピリさせての走行である。以前は《十年一昔》と云ったが、最近の事物の変化は素早く数カ月で変わって仕舞う。旅行者の気持ちも変わって当然であろう。宮脇氏の随筆集『終着駅』が、旅行テクニクスの奥義であるように思えたりする。

## 大輪田塾だより

### 兵庫県の水産業の概要と 漁場整備について学ぶ

10月に入塾した12期生を迎えて行われた11月講座は、11月29日（火）水産会館にて「兵庫県の漁場整備について」と「兵庫県の水産業の概要」の2講座でした。

「兵庫県の漁場整備について」は県水産課資源増殖室漁場環境担当森本 利晃主査から県内各地で行われている漁場整備について、その考え方や種類のほか、魚礁設置後の海中の様子を、映像を交えて話がありました。映像には多くの魚やカニなどが棲み付いている様子が写っており、塾生は興味深く見入っていました。

続いて「兵庫県の水産業の概要」として県水産課 長島浩副課長から、兵庫県の水産施策について話がありました。環境や漁業への支援をはじめ、後継者対策や水産加工業、内水面漁業に至るまでの幅広い内容を学んだほか、現在の漁業の姿として、全国の水揚げ量や就業者人口、食料自給率の推移などについてまで話が拡がり、質疑応答では塾生から多くの質問が出され、活発な意見交換が行われました。



多くの質問が寄せられた長島副課長の講義



漁場整備について講義をする森本主査